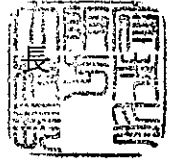


土 総 第 55 号

平 成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

枚 方 市



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平素は、本市の道路事業の推進に対するご理解とご配慮を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて先般、貴局よりご依頼のあった「今後の道路行政についての意見・提案の提出について」(国道企第 37 号:平成 20 年 9 月 19 日付)の件につきまして、別紙のとおり回答致します。

1 道路整備の中期計画の見直しに当たっては、都市部での幹線道路の渋滞解消などの地域の道路整備に対する幅広いニーズを汲み取り、必要な道路整備や交通安全対策、維持管理が停滞することなく着実に推進できるように必要な財源を確保すること

1 地域間交流を促進する交通網、緊急医療施設への搬送時間の短縮を図るための道路網、高規格幹線道路、地域高規格道路等の整備を緊急かつ早急に整備すること。また既存の高速道路ネットワークの有効活用・機能強化のため、ETCを活用した距離料金制、利用者本位の多様な料金設定の導入などを一層促進すること

1 買い物、通勤・通学など日常生活を支える生活幹線道路の整備、通学路の歩道整備やバリアフリー化、交通安全対策を着実に進めること。また、地方のニーズに弾力的に応えられる仕組みとして地方道路整備臨時交付金を引き続き存続・拡充させると共に地方における財政的な負担を軽減するため今年度創設された地方道路整備臨時貸付金を継続すること

1 東南海・南海地震への対応、豪雨等の自然災害にも対応できる国道1号を始めとする広域緊急交通路（大阪府選定の重点14路線）の確保等、災害に強い道路網を整備するとともに日常生活を支える既存道路の適切な維持管理ができる必要な予算を確保・充実すること

1 地球温暖化や沿道の大気汚染、騒音問題などに対応するため、道路環境改善対策を一層促進すること

②-1 地域の現状と抱える課題

大阪府枚方市

○ 現状

1. 本市は、大阪と京都の中間に位置し人口 40 万人を有する住宅機能を中心とした多機能都市であるが、本市域内の大阪と京都を結ぶ南北方向である都市間幹線道路である国道 1 号は一日の交通量が 8 万台を越えており、慢性的な交通渋滞やそれに伴う生活道路へのにじみ出しなど日常的に発生していることから幹線道路の交通渋滞やそれに伴う生活環境や物流の定時性が確保できないなどの経済活動への悪影響を解消し、人々が安全・快適に移動し交流することができる交通体系を作らなければならない。

○課題

1. 枚方市を支える交通体系として機能的な交通ネットワークを形成する。

(1) 広域幹線道路網

第二京阪道路の早期全線供用

新名神高速道路の着実な整備

(2) 幹線道路網

北摂地域との交通ネットワークを強化する都市計画道路牧野高槻線である淀川新大橋の新設

(3) 府域内幹線道路網

幹線道路の交通渋滞を解消するための円滑な道路ネットワークを形成するため第二京阪道路等へのアクセスとなる幹線道路の整備（枚方津田線、国道 168 号バイパス）

(4) 市域内幹線道路網

幹線道路の整備（牧野長尾線、中振交野線、御殿山小倉線）

○ 現状

2. 昭和 40 年代からの人口急増、急激な開発・都市化により大きな発展を遂げたが、現在は停滞傾向になっている。今後、全国的な人口減少時代を向かえ都市間競争の激化が予想される中で本市の活力を維持するためには人とまちの出会いがよいものとならなければならない。

○課題

2. 市民の視点に立った快適でやすらぎのある安全な生活空間が必要であり、少子高齢化が進む中でノーマライゼーションの考え方の基づく、まちのバリアフリー化の推進をさせるとともにその発展としてのユニバーサルデザインによるまちづくりや災害に強いまちづくりが重要である。

(1) 本市域には 12 の鉄道駅については、交通バリアフリー基本構想策定済の 5 駅の駅並びに特定経路としての歩道の段差解消等に引き続き、未策定の地域についても順次、バリアフリー化事業を推進し高齢者や障害者等の円滑な移動を確保していくことが必要である。

(2) 本市では牧野駅東地区、香里園駅東地区において市街地整備を進めているが、都市空間の有効利用により地域経済を維持向上するとともに、高齢化社会を迎えるなかで安心して生活できる生活空間を確保するためには、道路の計画的な整備とともに、市街地再開発事業や土地区画整理事業等の市街地整備事業を着実に推進する必要がある。

(3) 本市域において、国道 1 号の交通事故が多発している状況に鑑み、歩行者の安全確保のため、未整備区間の歩道整備が必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

大阪府枚方市

枚方市がめざすまちの姿

○ 第二京阪道路の整備効果から期待されるまちの姿

- ・ 第二京阪道路は、慢性化した市内の交通渋滞を解消するとともに京都と大阪を短時間に結ぶ新たな高規格道路として枚方市内で初めて整備される高速性、円滑性が確保できる自動車専用道路であり、市内では国道1号と京都守口線（旧国道1号）に加えて、ようやく3本目の広域幹線道路が整備されることになります。これにより、生活道路から通過交通が排除され市内交通渋滞が緩和され、物流の定時性及び高速性の確保による市内商業や関西学術研究都市の津田サイエンスヒルズをはじめとする工場など地域経済が活性化される。また、関西国際空港に直結することによる国際化の促進がされると期待している。
- ・ 本市と京都・大阪方面への緊急医療のための搬送時間が大幅に短縮されるとともに、北摂地域や京都・大阪の緊急医療機関が相互に補完され救命の選択肢がはるかに大きくなる。
- ・ 後方支援活動拠点のひとつである山田池公園と広域防災拠点とのネットワークが構築されて東南海・南海地震に耐えうる緊急交通路が確保でき防災体制の強化を図れる。
- ・ 道路機能だけでなく、道路の緑化や環境対策など力を入れ景観・環境に配慮された第二京阪道路が整備されることにより、美観に優れた市民に安らぎを与える緑豊かな緑地が創出される。

○ 新たな道路整備により期待されるまちの姿

- ・ 新名神高速道路は、東日本と西日本を結ぶ大動脈であり、地震などの災害時の代替ネットワークなどとして期待している。また、淀川を横断する東西軸は、現在枚方大橋1箇所のみで慢性的な渋滞を起こすなど不十分な状況にあり、淀川新大橋（地域高規格道路候補路線指定、都市計画道路牧野高槻線）の整備が、今後ますます重要となる地域間の広域連携等にぜひとも必要である。
- ・ 市内の幹線道路については、本市内の西側には京都と大阪を結ぶ京阪電車・東側にはJR学研都市があり、それらの12駅へは40万市民の貴重な交通手段となるバス路線が発達しているが、駅前広場が整備されていない駅やバス路線にもかかわらず歩道が整備されていない箇所が多数あるなど市内の安心安全なまちづくりを進める上で市内幹線道路の整備はまだまだ推進する必要がある。

これらを着実に実現することより、魅力にあふれ生き生きとしたまちづくりを進め「住みたい・住み続けたいまち」の実現をめざしていく。

○ 重点事項 都市間の交通ネットワークを整備する。 交通の流れを円滑にする。 安心して歩けるまちをつくる。 都市の施設を安心で快適なものにする	○ 代表事例 第二京阪道路の早期全線供用 新名神高速道路の全線整備（未着工区間含む） 第二京阪道路のアクセスとなる国道 168 号バイパス、枚方津田線の整備 市域内の都市計画道路の牧野長尾線、中振交野線、御殿山小倉線の整備 本市域にある 12 の鉄道駅について、交通バリアフリー基本構想策定済の 5 駅の駅並びに特定経路としての歩道の段差解消等引き続き、未策定の地域についても順次、バリアフリー化事業を推進	○ 期待する効果や評価等 国土幹線道路や広域幹線道路は、都市間をつなぐ交通ネットワークとして都市間交流を活発にし、市に新たな活力を生み出すとともに、関西国際空港に直結することによる国際化の促進などの市民生活圏の拡大につながる。 本市では、市内幹線道路が慢性的に混雑しています。そこで、交通渋滞を解消するため、円滑な道路ネットワークの形成や市内事業者の物流の定時性や高速性の確保できる。 大阪府では「大阪府福祉のまちづくり条例」に基づき、不特定かつ多数の人が利用する建築物、道路、公園などの施設を対象に、すべての人が安全に利用できるように整備が進められている。 本市においても、高齢者も若者も、障害のある人もない人も、すべての人が安全で快適に過ごせるように、まちのバリアフリー化を推進するとともに、その発展として、すべての人にとって安全で快適なまちとするユニバーサル・デザインによるまちづくりを進められる。	○ その他
---	---	--	--------------

○ 重点事項 文化観光資源を整備し、まちづくりに生かす	○ 代表事例 枚方市は、平成 15 年 3 月に「淀川舟運再生枚方宣言」を宣言し、地震などの災害時に活用できる舟運の再生に向けた取り組みを推進	○ 期待する効果や評価等 観光、物流、防災等多様な面で大きな役割が期待される淀川舟運の復活を図り、市民が水辺を身近に感じることができる川に向かって開かれたまちづくりが行える。	
---	---	---	--